

を繰り返し、基地周辺では約2〜3分ごとに耐え難い航空機騒音が観測され(グラフ2参照)、市民に甚大な騒音被害をもたらす、多数の苦情が市へ寄せられました。

人口密集地に所在する厚木基地で着陸訓練を実施することは、市民生活に多大な影響を及ぼすことから、市では決して厚木基地で実施することのないよう国や米側に強く要請しています。

厚木基地を取り巻く現状と市の取り組み

人口密集地である本市に厚木基地が所在することで、航空機騒音をはじめさまざまな影響を及ぼしており、市民は長年にわたり多大な負担を強いられています。今号では、厚木基地周辺の航空機騒音や空母艦載機の移駐、市の主な取り組みについてお知らせします。



大和市の上空を飛行する空母艦載機F-18スーパーホーネット

大和市基地対策協議会の取り組み

厚木基地に起因する航空機騒音などの諸問題解決に向けて、市民・議会・行政の代表者で構成される大和市基地対策協議会(会長:大木哲大和)

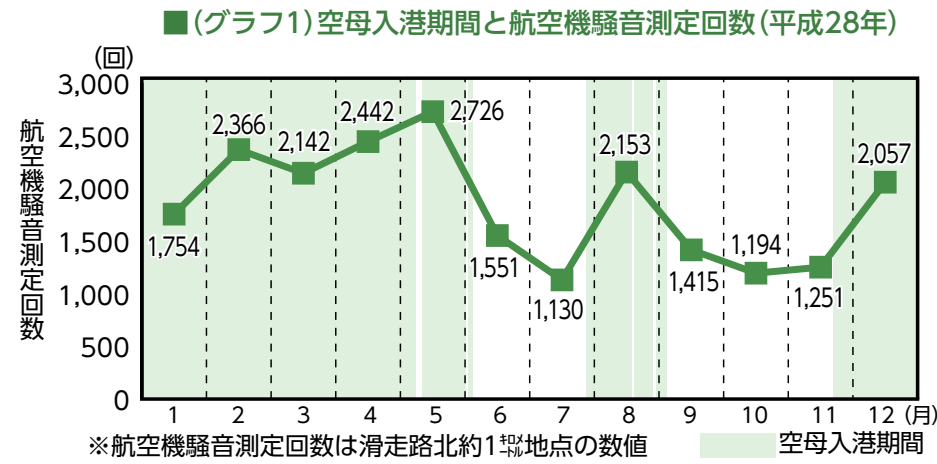
空母艦載機の移駐

■来年5月頃までに段階的に移駐

在日米軍再編に伴い、2006(平成18)年に日米両政府間で合意された「再編実施のための日米のロードマップ」において、空母艦載機(固定翼機)が2014(平成26)年までに山口県の岩国飛行場に移駐するとされましたが、その後、国から施設整備の遅れなどにより2017(同29)年頃に移駐が完了するとされました。

今年1月に国から、移駐は早ければ今年の7月以降に開始され、来年5月頃までに段階的に移駐し、それに伴い厚木基地の軍人など約3,800人が移動する予定と発表されました。そして8月9日、E-2Dホークアイの部隊が、岩国基地に飛来し、空母艦載機の移駐が開始されています。

移駐後の厚木基地の運用などについては国から示されていますが、市では、一日も早く移駐を完了させ、市民負担の軽減に確実に結びつけるよう国や米側に強く求めていきます。



厚木基地と空母艦載機

市民に深刻な被害をもたらしている航空機騒音の主な原因は、横須賀を事実上の母港とする米空母ロナルド・レーガンの艦載機の飛行による

厚木基地周辺の航空機騒音

厚木基地をめぐるさまざまな動きがある中、市では、一日も早い空母艦載機の移駐完了による航空機騒音の軽減など、厚木基地に起因する諸問題の解決に向け、県や周辺市と連携しながら取り組んでいきます。



外務省で要請活動をする大和市基地対策協議会の代表(手前)

市長では、毎年、国や米軍に対し要請活動を行っています。今年も8月25日に防衛省や外務省、総務省、米大使館を訪問し、空母艦載機の移駐を一日も早く完了させ、市民の負担軽減に確実に結びつけることや、空母艦載機の着陸訓練を厚木基地で決断して行わないこと、基地周辺対策の拡充などを要請しました。

着陸訓練と硫黄島代替訓練施設

空母の出港前には、地上の滑走路の一部を空母の甲板に見立て離着陸を繰り返す艦載機の着陸訓練(FCLP: Field Carrier Landing Practice)が実施されます。そのうち夜間に実施されるものはNLP(夜間連続離着陸訓練)と呼ばれています。

このNLPは、1982(昭和57)年から厚木基地で実施されるようになり、市民生活に特に大きな影響を及ぼしました。

その後、厚木基地からおよそ1,200m離れた東京都小笠原村の硫黄

母に帰還します。

昨年は年間232日、空母が横須賀に入港しており、それに伴い艦載機が厚木基地を拠点として飛行活動を繰り返す、時には深夜に及び飛行も見られました。艦載機の飛行は、生活環境の悪化や事故への不安など、さまざまな影響を市民に及ぼすことから、厚木基地周辺の生活環境は、空母の動向に左右されるといふ特徴を持っています(グラフ1参照)。

艦載機は、空母が横須賀に入港する直前に沖合から厚木基地に飛来し、空母出港後は再び沖合の空母に帰還します。

厚木基地の土地などが一部返還

今年6月30日、日米合同委員会で厚木基地の引込線部分の土地とその他工作物などが日米両政府により返還合意され、9月30日に米側から日本側へ返還されました(一部米軍用駐車場を除く)。

返還された土地は、ほとんどが国有地と民有地ですが、国有地の大部分はこれまで日米共同使用により市が道路として使用しており、返還後も引き続き道路として使用していきます。



返還された引込線部分の土地

厚木基地での着陸訓練は、最近では、2007(平成19)年5月に硫黄島の天候不良を理由に、また、2012(同24)年5月には、空母出港の遅れを理由にそれぞれ実施されました。

そして今年9月1日から5日(3日を除く)には、台風の影響で洋上での訓練ができないことから厚木基地で実施されました。着陸訓練中は艦載機が厚木基地を周回しながら離着陸

島に作られた訓練施設が1993(平成5)年に米軍へ全面提供されて以来、このような着陸訓練のほとんどが硫黄島で実施されていますが、硫黄島の天候などの理由により厚木基地で実施されることがあります。



硫黄島の訓練施設